

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

事例検討
がんの症状緩和と
多職種による在宅療養支援(後半)

* 本資料の作成にあたり、日本緩和医療学会緩和ケア継続教育プログラム(PEACE)資料を一部参考とした。

グループワーク 2

経口オピオイドを開始したものの、

- レスキューの使用状況が正確に把握できない
- 定時薬の飲み忘れや飲み間違いが発覚
- びりびりする痛みが右側胸部に走る

などの問題点が明らかとなった。

症状緩和のために各職種が服薬・処方に関して検討すべきことを考えてください。

司会：歯科医師・歯科衛生士
書記：訪問看護師 発表：薬剤師